

イノッチファームでシェアリングネイチャー NO28

2020.4.16

〈人はなぜ穴を掘るのか？〉

孫たちが畑に来ると必ずする遊び、“穴掘り”。丁度一週間前に掘った穴をそのままにし今日は続きを掘った。前は50cmほどの穴が今日は1mほどまでに深くなった。2年生が掘り上げる土の量は大きかったが、途中から助っ人に入った女子高生が掘ると見る見る穴が深くなる。どの程度の深さまでなら穴から出られるかそのたびに挑戦している。窪みは使っちゃダメとか、階段は使っちゃダメとか彼らなりにルールを決めて挑戦している。そのうち、畑にある資材を使って穴をふさぎ屋根にして完全に蓋をしてしまった。“おじいちゃん、もっと真っ暗にしてよ”とどうやら穴倉での秘密めいた暗闇体験をご所望のようだ。トタンやビニルシート、ベニヤ板などをどんどん乗せて暗くしてやったら大喜び！穴の中からはしゃぎ回る声が聞こえてきた。それしても人はなぜ穴を掘るんだろうとふと考えてしまう。海に行けばなぜか砂浜を掘るし掘った砂で山を作る。大昔、洞窟やほら穴に住んでいた頃の名残りののだろうか？あるいは、掘ることで食料を得た記憶が甦るのだろうか？木があれば登るし、川があれば石ころをひっくり返す。赤ちゃんは何でも口に入れて確かめる。子どもの無心な遊びや行動にはかかって生きるために先祖がしてきたさまざまな行動がDNAに組み込まれているのかもしれない。ムム、なんだかムズムズしてきたぞ！

